

第1回こどもはぐみ推進本部会議録（要旨）

開催日時	令和7年6月6日（金）14:50～16:00
場所	真庭市役所 本庁舎 応接室
出席者	本部長（太田市長）、副本部長（伊藤副市長）、（三ツ教育長）、 危機管理監（今石）、総合政策部長（木村）、総務部長（行安）、 生活環境部長（金谷）、健康福祉部長（樋口）、健康福祉次長（神庭） 産業観光部長（木林）、会計管理者（武村）、蒜山振興局長（南）、 北房振興局長（三浦）、落合振興局長（大塚）、勝山振興局長（谷岡）、 美甘振興局長（児玉）、湯原振興局長（佐山）、消防長（大見）、 議会事務局長（杉山）、教育次長（浅野）、湯原温泉病院事務部長（西本）
事務局等	子育て支援課（広岡、吉原、二宗、水島）
議事内容	《協議事項》 ①こどもはぐみ応援プロジェクト2025について 資料1 資料2 ②今年度の事業検討の進め方について 資料3 資料4 資料5 ③出生、結婚・子育て、若年層・子育て世帯の希望に関する地域課題について 資料6 資料7 資料8
冒頭の事項	本部長（太田市長） ：人口減対策、人口問題対策も含め、こどもはぐみの推進は頑張っ <u>て</u> 取り組んでいきたい。市民あるいは、団体と一緒に <u>な</u> って、こどもを産み育てるのは真庭だ <u>と</u> いうような地域にしていきたい。
①こどもはぐみ応援プロジェクト2025について 資料1 資料2	事務局 ：今年度は全89事業。新規14、拡充8事業。地域全体でこども・子育てを支える取り組みを最優先施策と位置づけて、子どもの権利や幸せを守り、子どもたちが将来にわたって幸せに暮らせて、子どもを産み育てたいと願う市民を応援し、夢や喜びを感じられるのが、全庁で取り組むはぐみプロジェクトの1番のポイント。昨年度こども計画を策定。子どもの権利をどう大人が守っていけるかを考えていかなければならない。 本部長（太田市長） ：真庭版のこどもの権利条例を作ろうという話は <u>ど</u> うなっているか。 健康福祉部長 ：昨年度、こども計画を策定し、そこを進めていく。権利条例は、今後教育委員会と具体的なところを詰めていきたい。 副本部長（三ツ教育長） ：権利条例そのものではないが、 <u>遊</u> びの機会作りの場、対話の場を設けて、こどもの権利、こどもが安心の中で自由に遊ぶとか休むとか自分で決める <u>と</u> いうような議論はしている。 副本部長（伊藤副市長） ：最終目指すところは、こどもの権利条例を作る <u>と</u> いうこと。真庭市が1番大切にしたいのは、単にこどもの数を増やす <u>と</u> いうことではなく、1人1人のこどもの権利をどう守っていくか、それが最終的に真庭が子育てがしやすい環境に繋が <u>っ</u> ていく <u>と</u> いう認識を職員みんな持ってくれている。市役所の中で個別の施策を議論すること、その時に1人1人のこどもの権利をどう守っていくのか <u>と</u> いう視点での議論を積み重ねていき、その先に条例という形に結びついていく <u>と</u> 思う 本部長（太田市長） ：自由権、平等権、社会権、ここの意識が当然に大事だが、今と昔の平等権を考えた時に、それが犯されてるのではないか <u>と</u> 思うことがある。権利から出

	<p>発しないと施策は安物になる。そういう観点を意識をして仕事をしてほしい。</p> <p>健康福祉部長：皆さんに意識をしていただくためにプロジェクトの冊子には冒頭にこどもの権利について明記している。その点を意識しながら今後の政策等に繋げてほしい。</p>
<p>②今年度の事業検討の進め方について</p> <p>資料3 資料4</p> <p>資料5</p>	<p>事務局：今年度岡山県の市町村バックアップ事業に参加する。市町村と県が一緒になって施策を検討するもので専門的な情報を基に少子化対策を今後どう進めていくかを一緒に考えていく。今年度は真庭市、津山市、笠岡市、備前市、和気町の4市1町で一緒に参加する。少子化対策の取り組みを分野横断的に展開することが重要で、推進本部会議やマトリックス会議をそういう場にしていきたいと考えている。</p> <p>今年度はマトリックス会議メンバーの中で特に関係の深いメンバーをコアメンバーとして、バックアップ事業を活用した施策の検討を進め、来年度の予算要求に間に合うよう、10月中には構想設定した事業をまとめる予定。</p> <p>副本部長（三ツ教育長）：少子化対策は大事なことだが、こどもはぐくみ応援プロジェクトは、真庭に暮らすこどもの今と将来の幸せをいかに支え、実現していくか。こどもの権利が担保されて、こどもに優しいまちをいかに作っていくか。結果、そのまちに居たい、住みたいと思ひ、外からでも入りたいと思うのが大きなベクトル。少子化対策も位置付けられていると思うが、今年メインがこれだという話になると、根本の部分はどう追いついていくのか。</p> <p>事務局：あくまでこどもはぐくみ応援プロジェクトは、こどもの幸せ、こども・子育てをしたい者、保護者の方に寄り添う事業を中心に考えていくもの。ただ事業検討をする中でなかなか議論が生まれにくいこともあり、県の伴走的な支援を受けられるのでこの事業を活用するが、少子化、こどもを増やすことだけを考えているものではない。</p> <p>副本部長（伊藤副市長）：政策立案をするときに、客観的なデータ分析に基づく政策の立案・検討というのも非常に重要。客観的な分析を行って、真庭市にとって何が課題か必要なのかを知った上で、具体的な個別の施策を検討する。個別の政策議論・検討する時はこどもの権利をどう守るかという視点を必ず持って具体的な検討を進めていければと思う。</p>
<p>③出生、結婚・子育て、若年層・子育て世帯の希望に関する地域課題について</p> <p>資料6 資料7</p> <p>資料8</p>	<p>事務局：県が作成した少子化要因見える化ツールの真庭市のデータについて。これは、出生率を大きく未婚率と有配偶出生率に分けて、それに影響を及ぼす特性を分かりやすく整理したもの。コメントは中国総研の柴田先生が書かれてる分析。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真庭市は合計特殊出生率が1.63で全国平均より相当高いが、出生数は減っている。 ・直近の2018～2022年で見ると、市の合計特殊出生率が全国平均より相当高いので、プラスに寄与している部分が多く、有配偶率、結婚されている率は高く維持ができています。 ・結婚されると第3子までこどもを産む女性が多い ・経年変化を見ると直近5年では有配偶率も落ちている ・第1子の有配偶出生率がずっとマイナス。若年女性の流出がマイナスになっている1番の要因と分析されている。 ・出産について、市民が何人こどもを欲しいかということ聞いたものが2.17だが、実際に持てると思うこどもの数が1.86というのが真庭市の現状。

	<p>・<u>結婚している方は希望子ども数も予想子ども数も多い。希望子ども数を増やそうと思うと、結婚する方を増やせば希望子ども数は伸びていく</u>ということ。希望子ども数、予想子ども数と合計特殊出生率については基本的には相関関係がある。</p> <p>・20歳から49歳までの方の結婚、出産、子育てに関する意識調査を項目別に分けて集計したものについて、<u>交際経験が低いスコアなのは、出会いが少ない</u>などが要因。</p> <p>・<u>所得について、真庭市は所得水準は平均を下回っているが、所得のゆとり感は非常に高いスコア</u>になっている。</p> <p>・高校生を抜粋したものについて、<u>地元志向であるとか地元定着、将来地元に戻ってくる可能性</u>があるか、今後の社会増減に関して非常に重要な要素であり、<u>男子は比較的高い値だが、女子が全体的に平均的もしくは若干下回っている部分</u>がある。</p> <p>本日は地域課題に対する解決の方向性、仮説について意見交換をいただきたい。</p> <p style="text-align: center;">～資料による意見交換～</p>
閉会	<p>健康福祉部長：<u>マトリックス会議のワーク、今回理事の方々に考えていただいたものも含めて、今後再度、マトリックス会議、コアメンバー会議の中で具体的な議論を進めていく。いただいている意見を大切にして、今後の検討につなげていきたい。</u></p>
確認事項	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>こどもはぐみ応援プロジェクト 2025 の内容について確認した。</u> ・今年度の事業検討の進め方について、「<u>こどもの権利</u>」を第一に考えること、岡山市町村バックアップ事業を活用して庁内会議での検討を進めていくことについて確認した ・<u>出生、結婚・子育て、若年層・子育て世帯の希望に関する各地域課題に対する解決方向性の仮説について意見交換を行った。</u>